

## 文化

## 民俗通信

283 鈴木 英一

## 聖地巡礼の道

「紀伊半島の靈場と参詣道」を世界遺産へ（下）  
動向と追加登録の課題――

〈和歌山県の動き〉

「紀伊半島の靈場と参詣道」をめぐる取り組みを振り返ってみたところ思います。

和歌山県は、熊野古道の世界遺産登録を目指して、サン

チャゴ・デ・コンボステーラの

あるスペイン・ガリシア州を

「巡礼路の最終地」として19

98(平成10年)に「姉妹道提携」を結びました。2000

(同12年)には「世界遺産登録推進会」を設置。翌2001

年には、三重県・奈良県に呼

びかけ、「世界遺産登録三県協議会」を発足させ、2004

(同12年)遂に「紀伊山地の靈

場と参詣道」を世界遺産に登

録の悲願を達成しました。

その後も、「世界遺産セン

タ」を開設し、地道な調査

活動を継続し、2016(同28年)には40・1%に及ぶ参詣道の追加登録(13%増)

成し遂げました。  
〈奈良県の動き〉  
奈良県では、2014年か

ら吉野・高野間の尾根道を「ボートレール」と呼び称して、山岳マラソンを行っていますが、参加者は毎年200

人を超えません。このイベントが実施されるようになった経緒は不明ですが、関係識者の多くの議論は、空海の有名な「表文」の一節「空海少年の日、好んで山水を涉覽して、吉野より南に行くこと」日、更に西に向って去ること西日にして、平原の幽地あり、名付けて高野と云ふことをもとに、空海が何時どの道を通ったかに拘り(こだわ)りすぎるのではないかと思いま

る。その後、参詣道とびき道が作られ建

築材が運ばれて、高野山の伽藍(からい)が建設され、多くの僧侶が修行し、その僧侶たちの生活を支える庶民たちはが集まり、必要な物資を運んでくる人や大師を慕う参拝者が集まつてくる。そうした人々が歩いた道を、参詣道として検証する必要があると思

います。

〈奥駿道〉  
総延長約80kmの道は、役行者(えんのきょうじや)が開



五條市大塔町中原の集落を西から東向きに空撮（左奥の天川村から続く大峯と高野を結ぶ街道は、大塔町阪本・小代なら中原集落に上り、野迫川村野川に続く。山本誠氏提供）

## 限界超え消滅の危機

## 人呼び込める工夫必要

翌日は、近畿の最高峰・八

